「女性視点の防災ブック」編集・検討委員会

（第３回）

議　事　録

平成29年７月28日（金）

第一本庁舎25階107会議室

午前10時10分開会

○池上委員長　皆さん、おはようございます。始めさせていただきます。

これから委員会を進めるに当たって、前回と同様なのですが、御注意を申し上げたいと思います。

本会は非公開で、書類など十分に御注意いただきたいと思います。

この委員会は「女性視点の防災ブック」編集に関して助言を行うということで、私たちの意見をできるだけ反映していただきたいのですけれども、全部が掲載されるということではないことは御承知おきください。

早速、次第に沿って進めさせていただきます。

次第の２「女性視点の防災ブックの展開について」ですが、事務局より御説明をお願いいたします。

○事務局　資料１について御説明します。前回の委員会におきましても、タイトルとかもろもろ検討する上でもターゲットがどこなのかとか、今後の配布の方法とか、そのあたりも含めて考えなければいけないという御意見をいただきましたので、今回は改めて今後の展開等につきまして説明をさせていただきます。

先月、都民に対してインターネット調査を実施いたしました。その内容を御紹介いたします。

女性の96％の方が災害の際に心配事があると回答をしております。一方で、実際に防災対策を行っている割合が36％にすぎない。

理由を見てみますと、「防災」についてのイメージですが自分の生活に直結すると思っている方は40％程度にすぎない。

また、防災対策をしていない理由についてですが、「具体的な方法が分からない」「面倒くさい」という御意見が多かったということで、やはり今回の防災ブックのように、自分の生活に直結するものとして無理なく取り組める取り組みを紹介することが必要だということが改めて確認できたと考えております。

男性よりも女性のほうが防災に対して「やらなくてはいけないこと」と考えている。さらに、災害対策をしていない理由につきましても「面倒くさい」と考える割合は、女性は男性よりも少ない。むしろそれよりも「具体的な方法が分からない」ということを挙げる方が女性には多いことから、やはり多くの女性の方は防災のことを気にかけてはいる。ただ、具体的な取り組みには至っていないことがわかると思います。

ですので、今回の防災ブックではこういった低関心層の女性の方に対して、生活の延長線上で防災対策に取り組んでもらえるよう進めていきたいと考えております。

「２．広報・PR」の話ですけれども、こうした人々に防災ブックを読んでいただくために、来年の２月、３月に広報・PRを実施いたします。前回の「東京防災」のように今回は全戸配布を行わずに、御自分から防災ブックを手にとってもらうことが必要だと考えていますので、やはり防災ブックを知ってもらい、興味を持ってもらうことが非常に大切です。

具体的な広報内容はこれからですけれども、認知度を高めて、何だろう、欲しいなと興味を喚起してもらうようなそういった話題づくりを含めた広報・PRを今後やっていきたいと思います。

「３．展開」につきましても、そういった広報・PRで興味を持った都民の方が日常の中で気軽に手にとれるような、例えば美容院、銀行、スーパーとか今、いろいろな事業者に声をかけておりますけれども、なるべく身近なところで手にとれるように展開をしていきたいと思っていますので、この先のいろいろな御意見をいただく際にもこういった展開、ターゲットについて御念頭に置いた上で、いろいろと御意見をいただければと思います。

以上です。

○池上委員長　ありがとうございました。

御説明は以上ですが、ただいまの御説明を踏まえて、本日の検討をしていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、次に次第の３「議事」に入らせていただきます。

まずはテーマカラーについて検討していきたいと思いますので、事務局から資料の御説明をお願いいたします。

○事務局　前回の委員会におきましてもテーマカラーとして紅赤色と萌黄色の２つの色を参考に御提示しました。今回は手にとってもらうことが大事だということで展開について御説明しましたが、そういった観点から改めて２つの色について御説明をさせていただきます。御意見をいただければ大変ありがたいと思います。

資料２をごらんください。

改めまして、萌黄色ということです。この萌黄色ですけれども、淡い緑で若さの象徴ということで古くから使われているということですが、ただ、萌黄色を見出し等の文字に使用した場合、どうしてもちょっと見づらくなってしまうというところで、カラーユニバーサルデザインの認証が通らない可能性がある。カラーユニバーサルデザインは、色覚の個人差を問わずに多くの人が見やすいように色使いに配慮をするというものなのですが、前回の「東京防災」でも認証を取得しておりまして、専門の機構からの認証を得ていくことになります。今回の女性視点の防災ブックにつきましても、カラーユニバーサルデザインの認証を取得する予定でおります。そういった観点から萌黄色につきましては、認証を通らない可能性があると考えております。仮に認証を通すとすると、もう少し見やすく濃い緑色を使うことが必要になり、ちょっと全体的に暗いトーンになってしまっているところがございます。

もう一つは紅赤色です。前回ピンクだと少しかわいいとかファンシーとかいろいろと御意見をいただいています。今回はピンクというよりは紅赤、わずかに紫を含んだ鮮やかな赤色ということで、こちらも古くから人気があって、今も化粧品、あるいはサツマイモや地ビールとかいろいろなところの色の名前としても用いられているところがございます。こちらはカラーユニバーサルデザインの観点からいきますと、認証を通る可能性が高い、

非常に見やすいということがございます。紅赤といっても若干幅がありますので、このあたりというのは今後しっかり調整をしていきたいと思っています。

先ほどもお話ししましたように、全戸配布ではなくて身近な場所で手にとっていただくことが非常に大事かと思っていますので、一般的に赤系統のほうが目につきやすいといったところもあるのかなということで、そういった点では利点があるかと思っています。

我々としましては、カラーユニバーサルデザインの観点も踏まえると、紅赤色のほうをキーカラーとして今後デザインをしていきたいと思っておりますが、皆さんの御意見をいただければと思います。

以上です。

○池上委員長　ありがとうございました。

ただいまの御意見を踏まえて、最終的には東京都が決めることになります。

それでは、御意見をお願いいたします。

○中島委員　その前になのですけれども、多分このキーカラーのことは最後に話したほうがいいかと。というのも、こういうのは最終的にどういう本にしたいかとか、どういうコンテンツを中に入れていくかとか、構成案とかが全部ではないとしても見えてくると、この色がいいねと決まっていくことだと思うのです。なので、今日もコンテンツの話をしてから、そうなるとやはり緑のほうが認証を通らないかもしれないけれどもいいのではないかとか、ピンクのほうが目立ってよりいいのではないかみたいな話に結びついて、頭に入ってくるような気もするので、タイトルのことも話をするということですけれどもと私は思うのですが、それでどうでしょうか。

○池上委員長　皆さんよろしいでしょうか。

（「はい」と声あり）

○中島委員　最後にしてもいいのではないかと。

○池上委員長　大変貴重な御意見、ありがとうございました。

それでは、予定を変更いたしまして、そのようにさせていただきます。

次の検討に入りたいと思います。構成案について検討していきたいと思います。事務局から資料の御説明をお願いいたします。

○事務局　資料３をごらんください。

全体構成です。大きく目次、ステイトメント、巻頭企画、心理テストと続いて、大きく３章構成で具体的な防災のノウハウを掲載していきます。

今回日常のさまざまな生活シーンを切り口に防災対策を掲載しておりまして、先月皆様方に一度お示しし、御意見をいただいたところですが、本日改めて御説明をしたいと思います。

構成案の御説明の前に中面の構成についても御説明したいので、３ページをごらんください。基本的な構成について御説明します。

まず、低関心の方にもしっかりと興味を持っていただけるように、つかみで関心を引く

ということから１コマ漫画を用いたいと考えています。必要な情報が目につきやすいように「すぐできる」「暮らしに合わせて」「計画的に」の３カテゴリーに整理をいたします。記載のレベル感にメリハリをつけて、「すぐできる」は取り組みやすいところだけを書いて、例えばこれだけを拾い読みできるようにしています。さらに興味、関心を持った方は、「計画的に」に記載した取り組みにまで進んでいただくということで、メリハリをつけていきたいと考えています。

３ページ目にありますが「体験ボイス」ということで、なぜこの備えが必要なのかという実際に被災経験のある方の声を掲載していきたいと思っております。

１コマ漫画のところで１点補足をいたします。先ほど御説明した１コマ漫画なのですけれども、進行キャラクターを登場させたいと思っています。企業に勤める防災意識の高い先輩と意識の低い後輩。女性２人が登場していろいろなトークを繰り広げて、進行キャラとして登場させる。リアルなキャラ設定をして自分ごと化をさせていきたいと思っております。

構成について、A3の資料にお戻りいただきたいのですが、第１章ですけれども、事前の備えについて掲載をしております。一番左のところにＡ、Ｂ、Ｃという分類があります。掲載内容に応じて大きく分類をしておりまして、Ａは日常の暮らしの中で命を守る優先度の高い項目ということで、興味喚起をより図っていきたいといったものになりますので、今、御説明したような１コマ漫画とか３つのカテゴリーでメリハリをつけて書くということで、手厚く紹介をしていきたいといった事項でございます。

次のＢは、知ってもらって少し工夫をすれば有効だといった行動。あるいは、ある程度ターゲットが絞られるような内容です。いろいろなイラストを用いながら御紹介をしていきたいと思います。

Ｃは知識としてしっかり知っておいていただきたいもので、コラムのような形をとったものとなっております。

内容に応じてメリハリをつけていきたいと思います。

Ａ、Ｂ、Ｃの掲載順序ですけれども、トイレとか食事のような重要度の高いものを上のほうに配置をしております。ただ、Ａだけがずっと続くと飽きてしまうということもありますので、少しＡ、Ｂ、Ｃを分散させてメリハリをつけています。この順番等につきましても、また御意見をいただければありがたいと思います。

第１章の具体的な掲載内容ですけれども、かいつまんで御説明をいたします。

まず「トイレをする」ですけれども、被災の際にトイレが使えないことを想定した備えを掲載しています。やはり外出先でということも想定されますので、そういった内容についても今回紹介をしていきたい。

「食事をする」につきましても、被災時にガス、電気等が使えなくなる。食事に不便を来すことを想定した備えを書くことになります。

「買い物をする」につきましても、例えば100円ショップの防災グッズなどのような気軽

な防災対策について掲載をしていく。

「寝る」につきましても、寝室での備えなど就寝時に発災することを想定して、命を守るために何が必要かといった内容について掲載をしていく。

「体温を調節する」ですが、暖をとる、涼をとるといった観点から必要な備えを紹介します。

「お風呂」につきましても、入浴中に被災することを想定したり、あるいはユニットバスの場合は、例えば着替えをベッドではなくバス内に置くとか、一人暮らしの方も想定をしております。

「コミュニケーションをとる」につきましても、物の備えだけではなくて友人とか地域との関係構築について書いたり、あるいは友人と集まれる店を決めておくといった地域とのかかわりが薄い人も想定した内容を書きます。あとは仕事・学校や職場での備え。

「情報を集める」につきましては、アプリやSNSを活用した情報収集のやり方について掲載をします。

「片付けをする」につきましても、家の中の安全対策ということで、例えば１ルーム４人家族のリビング、子供部屋、高齢者の寝室など対象に応じたレイアウトを紹介して、自分ごと化を図っていきたいと思います。

「育児」につきましても、学校とのコミュニケーションの話、ママ友との話し合いとか、あとは防災キャンプといったような子供とのかかわり方も含めた対策というものを掲載していきたい。

「たすかるポーチ」ですけれども、これは日ごろ使っているバッグにちょっとこれを足すだけで防災ポーチになりますといった物の紹介をしていきたいと思います。

「要配慮者」のところですけれども、高齢者、障害者、外国人の方への事前の配慮について掲載をしていきたい。

あとは「消防団」。女性消防団や自主防災組織などについてもここで紹介していきたいと思っております。

続けて説明させていただきます。第２章になります。こちらは発災時の基礎知識について掲載するということで、発災時の情報をしっかりと記載をしていきたいと思っていまして、中面のイメージとしては先ほど御説明したＢです。

具体的な掲載内容ですけれども、「被災時の実情」ということで被災したらどうなるのかをイメージしてもらえるように、例えば震度６弱の揺れの体験者の声とか家具転倒での負傷者の割合などを掲載していきたい。また、地震以外でも風水害なども取り上げていきたいと思います。

「発災時の基本の行動」「避難の判断」なども外出時、自宅での身の守り方であるとか、避難の際の注意点などを書いていきたいと思います。

「発災時の心の動き」ということで、いざというときに冷静になれるように、発災時には、例えば、自分だけは大丈夫とか、人と一緒だから大丈夫といったバイアスがかかって

しまうといったことを紹介していきたいと思います。

それと、帰宅困難者の対策。あとはJ-anpiなどの安否確認方法の紹介。あるいはデマを信じない・広げない対策についても書いていきたいと思います。

最後は「女性や高齢者でも出来る救助法」を、コラム的な扱いになるかもしれませんけれども、掲載していきたいと思っております。

続けて、第３章になります。こちらは被災後の暮らし方を避難所の生活と在宅避難に分けて紹介をするページになります。こちらの第３章も第１章と同様にＡ、Ｂ、Ｃに分類しておりまして、Ａは命を守る上で優先度の高いもの、Ｂについてはやはり知っておくと大事な行動あるいはある程度ターゲットが絞られるもの、Ｃは知識としてしっかり知っておいてほしいものということで、１章と同じような分類、同じような中面構成を想定しております。

掲載内容でございますけれども、まず、避難所に行くか在宅避難かの判断基準とか、避難所生活のQ&A、あるいは助け合いの心、ルールの重要性などの避難所での暮らし方の基本について冒頭に紹介していきたい。

「トイレ」ですけれども、避難所でのトイレの実情や悪臭の対策とか、手洗いなどのノウハウについて掲載をしていきたい。

「寝る」につきましても、睡眠不足の際の健康管理法とかプライバシー確保の方法など、避難所でしっかり睡眠をとるためのノウハウを書いていきたい。

「育児」につきましても、授乳の方法、子供のケアなど避難所での育児に関する問題の対策を書きます。

「液体ミルク」です。液体ミルクとはどのようなものか。例えばその利点とか活用事例とか紹介したいと思っております。御案内のとおり、まだ国内で流通しておりません。一方で、また国でいろいろと動きがありますので、そのあたりの動きも含めてコラムのような形式になるかと思いますけれども、紹介していきたいと思います。

「お風呂」につきましても、お風呂に限らず、避難所で気持ちいい、きれいを保つとか、衛生管理的な観点でのいろいろな対策を書いていきたいと思います。

「体と心のケア」につきましても、避難所で体と心の不調を来す、それに対するケアをどうしたらいいかといった内容で、ここに書いてある不調の中でも特に重要なものとかをピックアップして掲載をしていきたいと思います。

「防犯」につきましても、避難所で犯罪に遭わないためのノウハウを書いていきたい。

「ペットのケア」につきましても、いわゆる同行避難について掲載をしていきたい。事前の備えとかしつけが重要です。あとペットのストレス、病気対策などのノウハウを書いていきたいと思います。

「要配慮者」につきましても、また御意見いただければと思いますけれども、外国人、障害者、高齢者などの要配慮者に対する思いやりについて書いていきたい。

次は「在宅避難について」ですけれども、在宅避難につきましてもメリット・デメリッ

トがあります。あとは安全な部屋の片づけと自分の家で避難するための対策について掲載していく。

「トイレ」につきましても、家のトイレが使えなくなるということがありますので、その場合の対策あるいは水が流せないときの非常用トイレのつくり方などを紹介していきたいと思います。

「食べる」につきましても、節水とか在宅避難の際の料理の工夫を書いていきたい。

「防犯」も、火事場泥棒とか性犯罪とかいろいろとリスクが高まりますので、犯罪対策も掲載していきたい。

さらに罹災証明書の発行とか経済支援制度など、生活再建に向けた手続について紹介していきたいと思います。

非常に駆け足で御説明いたしました。

特にお伺いしたい点といたしましては、Ａ、Ｂ、Ｃの分類が本当にこれでいいのか。例えばこれはもっと手厚く書いたほうがいいのではないかとか、御意見をいただきたい。あとは項目でいろいろとグルーピングしていますけれども、これはこちらのグループで紹介したほうがいいのではないかとか、あるいは掲載順序、これはこちらと一緒に説明したほうがいいのではないかとか、そういったあたりを御意見いただけるとありがたいと思います。

また、要配慮者につきましても、第１章、第２章で一応案としては出しましたけれども、もっとこういった形で紹介したら、こういった内容を書いたらいいのではないかというのもあれば、御意見いただければと思います。

○池上委員長　ありがとうございました。

ただいま御説明いただいた「構成案について」ですが、これから皆様からいただきます御意見を踏まえて、最終的にはやはり東京都が決めていくということでございます。

それでは、ディスカッションに入りたいと思います。どなたからでも御意見がありましたら、お願いいたします。

○国崎委員　議論の進め方の提案なのですが、今、例えばＡ、Ｂ、Ｃの区分が適当であるかどうかであったりとか、それから掲載の優先順位であるとかといったことに対して多分一つ一つ詰めていったほうが、意見があっちに行ったりこっちに行ったりしなくていいと思うので、先に、例えば、今までの御説明の中でのＡはこういう表記、Ｂはこういう表記といったところもイメージをしながら、このＡ、Ｂ、Ｃでいいのかという議論から進めたらいいのではないかと思います。そのほうが整理しやすいのではないかと思います。

○池上委員長　いかがでしょうか。それでよろしいですか。

（「はい」と声あり）

○池上委員長　わかりました。

それでは、Ａ、Ｂ、Ｃが適当かどうかという議論から始めたいと思いますが、皆様、いかがでしょうか。

○国崎委員　説明を聞いていて、このテキストで見るとしっかり区分されているように見えるのですが、私が気になっているのがＣのカテゴリーです。知識としてしっかり知っておいてもらいたいものは、やはりＡだと思うのです。つまり何かというと、Ａというのは非常に優先度の高い項目ですから、知識としてもしっかりしておいてほしいものですね。そこの見せ方として、漫画等を使用しながらということだとは思うのですけれども、そうするとＣをどう分けていくのかが非常にわかりづらいと感じます。
○池上委員長　そうですね。説明を聞くとそんな気がしないでもないですが。
○冨川委員　私も、Ａ、Ｂ、Ｃの差がよくわからない。多分読んでいる方にしたらみんな同じに見えてしまうかなというところがあったので。
○田中委員　このＡ、Ｂ、Ｃは内々で分けているだけであって、冊子にＡ、Ｂ、Ｃと出なくていいと思っています。
○事務局　Ａ，Ｂ，Ｃとは冊子には書かないです。ランクというか、本として読んだとき、多分Ａがずっと続くと読んでいても飽きてしまったりもするので、少し雰囲気を変えるというか、Ｂのところも軽く書くわけでは決してないので、誌面をつくっていく上での区別。
○中島委員　ボリュームの問題ということですね。ボリュームと見せ方をモードによって変えていくということで、多分台割の問題というか、例えば６ページ割きましょう、２ページのまとまったコラムにしましょうということですよね。Ａというのが一番手厚く６ページとかで紹介していく場所、Ｂはその次くらいのボリュームにしましょう、あとは２ページ完結の見開きにしていきましょうというのがＣと、このＡ、Ｂ、Ｃは考えればいいですか。そういうカテゴリーなのかと私は勝手に思ったのです。
○冨川委員　Ｃはコラムみたいなことなのですね。
○中島委員　みたいなもので、多分このデザインのイメージだとそうですね。見開き完結で見せていく豆知識、豆知識と言ったらあれですけれども、ということだと思うので、その程度でいいか、それともがっちり詳細までつくっていったほうがいいのか、その中間くらいかというものの優先度を大体Ａ、Ｂ、Ｃという配分くらいの範囲内でやっていきたいということでいいですかね。
　そうしたら、ここに書いていただいているカテゴライズは一旦のけてしまって、何の優先度が高いのか、何にページ数を割いたらいいのかということとか、グルーピングとかを考えていくということかと思います。
　そうなったときに、トイレ、食事、寝る、片づけるが最重要項目、Ａになっています。これで大丈夫なのですか。それとも皆さんの御意見として、例えばお風呂とかそういうことが結構大事なんだよとか、日常生活でできる防災というか対策を考えるときに優先度が高いものとして、例えばコミュニケーションをとるとかはもうちょっと手厚くやったほうがいい問題なんだとかというのはありますか。
○国崎委員　私の中で混在しているのが、まずＡというのは、間違いなく項目の優先順位になっているのです。例えば「トイレをする」だったらトイレの中でも最初に伝えたいこ

と、基本的なところはここ、でも知恵を絞ればこういうこともできて、コラムとしてこのようなことも知っておいてほしいという、トイレの中においての内容の優先順位が多分ＢやＣだと思うのです。

本を書いていると、こういうようなＡ、Ｂ、Ｃという区分けは余りしなくて、台割でもトイレには何ページ割くのか、伝えたいことの優先順位をトイレの枠の中で多分決めていくのですね。これは本編としては読むのはつらいけれども、コラムとしてはおもしろいから入れておこうということだと思うのです。そこのところで、私はちょっと整理をできていないのです。

例えば、今の話で言うと、トイレは重要だと思うけれども、体温調整をどうするか。生命の三原則の中に体温調整はあったりもするのですけれども、そういった中で女性としてという部分で強調していくのか、それとも基本的な防災の視点でやっていくのかでも優先順位は変わってはくると思うのです。

確かに「仕事・学校へ行く」という項目は優先度は低いのかなとは思うのですが、最初に何を伝えるかという部分で、ページの中で最初から基本的なところだけ優先的にＡの部分をまとめて見せていくのか、それともＡがあって次にＢがあってというページになっていくのか、そこら辺が私の中ではまだどういうイメージになっていくのか、この優先順位をページで割っていくときにどうなっていくのかがちょっとわからないです。

○池上委員長　ちょっと１ついいですか。

司会者で余り意見をとは思うのですが、大事なことでぶれてはいけないことは、命を守る方法、けがをしない方法、火事を出さない。私はこの３点が一番大事だと思うのです。そこを守っていかないと、トイレや食事とかとありますけれども、生き残ってから先のことをすごく強調すると、そこが怖いと思っています。全体としての構成でぶれないのは、やはり命を守ってけがをしなくて、だから、コミュニケーションが大事ということも生き残ってからみんなで頑張りましょうということにつながったりとかいろいろとするわけです。けがをしてしまったり命を落としてしまったら、それから火災を出して大変な状況になったら、その前にやっておかなければいけなかったでしょうと後で思ったって後悔になってしまうので、そこはぶれないで、そのために何をしたらということを本で御紹介して、でも、いろいろな知識が入っているとそれがとても役に立って普段の生活の中でも工夫につながるのだと、その工夫が命を守ることにもつながるのだということが説明できていったらいいと思うのです。なかなか難しいところなのですけれども、そこがぶれてしまうと、みんな生き残ったところから始めてしまうのです。備蓄だけして備えは大丈夫となるのが、私たちが市民と接していてとても感じるところなのです。

アンケートにもあるように、いろいろな方法があるのだけれども、何から優先していったらいいのかわからないということで、やはり家具の転倒、落下、移動とかガラスの飛散防止フィルムを張ることとか、それからコミュニケーションや火事の防止策をしていくこととかになっていくわけです。

ということで、「東京防災」に載っていたような部分なのですが、そこはばしっと決めていて、そのためにこういうことがあるのだということはぜひやっていただきたいと思います。今、皆さんが混乱しているのはそういう部分なのです。

○事務局　もともとＡとして一番大事なのは何かと考えたとき、命を守るということで、基本的な行動、食べる、寝る、トイレ、食事が最初はそこが一番大事であろうと。カテゴライズと言うと言い方があれですけれども、それからそれに付随するものをと最初は考えたりもしていたのですけれども、一方、そうすると自宅の備えみたいなものにどうしても特化してしまう部分があって、それがいわゆる東京に住んでいる方、生活されている方の自宅だけではなくて、外の時間もかなり多いところもありますので、東京のライフスタイルに合わせたものにしたいということもありました。

最初に大きなものをまとめてしまうと、教科書的になってしまう部分もあるだろうということで、少しちりばめたらどうかということもありまして、一旦私どもで考えたのはこういうことのほうが、低関心層が入りやすいこともありますので、こういう構成でどうかということで御提案をしてみたところです。

ですので、そういう意味で何が大事かということから御議論いただいたりしながら、次の段階で構成でもいいとは思うのです。ちょっとわかりにくくなっているというのは、そういう経過もありまして今回お示しをしたところです。

○中島委員　１章のコンテンツの前に、この後に出てくるのだと思うのですけれども、巻頭企画（今すぐできる30のこと_BLT）も入るし、ステイトメントということは小池知事とかのお言葉が入るみたいなことですか。

○事務局　この本のコンセプトを体現するような何か言葉をと考えているのですが、どういうふうにするかはこれからです。

○中島委員　そこはちょっとまだということで。とにかく、これはこういう本です、目次があります、こういうことを伝えたいです、それで巻頭企画があって、心理テストがあって、そこから始まるこのコンテンツということですね。

○事務局　そうです。

○中島委員　ということはその前段で、こういう本でこういうことが防災につながるのだということは何となくイメージはしてもらうということですね。ここから具体的な情報が始まると考えればいいということですね。

その前段階、例えばなのですが、これはちょっと話が本筋から出てしまうかもしれないですけれども、最初に教えていただいたアンケートの結果がすごくいいと思ったのです。きっと私だったら、この大項目の前のところにアンケートの結果を絶対使います。みんな関心がある、でも、何をしたらいいかわからないというのが現状だ、あとは面倒くさいとも思っている、しかも女性のほうがその比率が高いみたいなものは、すごくわかりやすい現状だと思うので、それがあって、「そういう感じではないですか」、「心当たりはないですか」と呼びかける。そのような人に向けてのこういう本ですというメッセージがあっ

て、そして、その人たちに向けてまずここから始めてみませんかという「30のこと」がある。そこからさらに具体的な情報が１章から始まるという流れを考えていくと、ここの優先度とか、今、皆さんがつくろうとしているもの、カテゴライズとかも考えやすいのかとは思います。

なので、何をやっていいかわからないけれどもやってみようかなとまず思ってもらってから、さっき教えていただいた命を守る、火事を出さない、けがしないという３つがまず大事なのだとかも、もしかしたらもう入っているかもしれない。

読者にリズムよく読んでもらうとか､飽きないように読んでもらうとかという意味では、もうちょっと整理する必要がきっとあるだろうと思うのですけれども、このデザインや見せ方とかは置いておいて、具体的な情報として国崎先生がおっしゃったように、トイレの中にもいろいろな項目があるというのはもちろんそうです。そうなのですけれども、そこでどうしてもその中から出てしまうことはコラムにしたらいいと思うし、とりあえず柱を大きく決めていってという感じでいいのではないかと。

○池上委員長　大分整理ができました。ありがとうございます。

○中島委員　なので、こういう項目が入ったほうがいいとか、この項目はすごく大事だからページを割いたほうがいい、つまりここでいうところの仮ですけれども、Ａにしたほうがいいというようにしていくといいのではないでしょうか。そこは絶対ではなくて、出るものは別にコラムとしてつけていこうとか、これは要らないのではないかみたいなことかと思うのですけれども、どうでしょうか。

○五十嵐委員　そうすると、初めの「いますぐできる30のこと」と後ろとのつながりも考えながら話していったほうがいいですね。

私も行ったり来たりするのですけれども、「いますぐできる30のこと」でもしかしたら今回の企画が女性視点なので、そこを少し女性色みたいな女性ができる準備みたいなことを先に出して、その第１章の下のほうではもっと命のこととか、先生がおっしゃったようなけがをしないとかというところをもう少し詳しくやっていったほうがいいのか、どうなのかなというのがあります。

○事務局　それでは、資料４のほうに。

「いますぐでいる30のこと」は、基本的には女性特有のことだけではなくて、「これも防災なのか」といったような、日常の暮らしの中で、「トイレは済ませておく」というように誰でもできる非常にハードルが低いところ。防災に関心を持ってもらうための企画です。最後の５項目程度でちょっとだけハードルを上げている形にはなりますが、全体的にはこの企画で防災へのハードルをちょっと下げる。

○中島委員　この30のことがあって､そこから具体的に情報に飛べるようにするみたいな、これは仕掛けの問題ですけれども、最初に日常のこのようなことも防災につながるのですというのがあってそれぞれを見ようと思ったら、「行けるときに、トイレは済ませておく」だったら15ページを見ればいいのかみたいな感じで飛べるとかにしておくと、多分どのよ

うな項目が出てきても後ろの情報とリンクができる。最終的な調整がまだできると考えていていいのですよね。
○事務局　一応資料４に30項目を掲載しています。ハードルが低そうなものを一応挙げてみました。全項目が資料３の項目にと必ずリンクしているわけではございません。
○冨川委員　その他が結構ありますね。
○中島委員　本当ですね。そうしたら物によりますけれども、どこかしらには結びつけたほうが､中を読んだらそのことがわかるというようにできる項目を30の中に入れたほうが、その本の中で完結できると私は思うのです。
○五十嵐委員　後から抽出できるのであれば、そちらのほうがいいですね。
○池上委員長　いかがでしょうか。ほかに何かありますか。
○田中委員　私は情報があっちこっち行くと本当に防災をやりたくなくなってしまうので、私としては、内容は置いておいて、いわゆるＡ、Ｂ、Ｃが優先順位なのであれば、ＡはＡ、ＢはＢ、ＣはＣとまとめてもらわないとやれないのです。「いますぐできる30のこと」とたくさんの防災の情報があり、全部やらなければいけないのだとなると、結局、書いてあるけれども何をやったらいいかわからないのです。なので、どちらかというと最低限Ａをやっておけば何とかいいみたいなところを先に全部書いてもらって、それができてからようやくＢを読むみたいな順番にしたほうが、アクションを起こしやすいとは思いました。全部読んでもらう前提で書き過ぎな気がします。
○池上委員長　どうしてもあれもこれもと知識が邪魔してしまうということがありますね。それで田中さんのような方が委員としていらっしゃるわけですから、そういう御意見を。
○田中委員　飽き性なのです。
○池上委員長　どうしても知識があるとあれもこれもと、それがハードルを高くしているということも事実なのです。
　冨川さん、いかがでしょうか。
○冨川委員　今、多分Ａ、Ｂ、Ｃに分かれている最初のＡの部分は、恐らく命にかかわる部分を持ってくるのはいいのかなと思うのですが、私自身もステップ１からステップ３くらいまでの段階が欲しいとは思うので、読んでいる人にはわかりづらいのかもしれないのですけれども、そこはもうちょっと私としてはこれがステップ１なのかステップ２なのかステップ３なのかというのは、割とわかったほうがやりやすいのかなと思っています。それこそまずはとりあえずステップ１というのが、「いますぐできる30のこと」と結びついていれば、やりやすいのかと思うのです。
○池上委員長　何か取りかかる順序みたいなものをちょっと示してあげる。
○冨川委員　あと私たちがよくセミナーですごく実感するのが、発災時の命をとっさに守る行動とその以前にやっておくべき行動というのが割とごっちゃになってしまっているケースが多いので、第２章で発災時のことをやるのですけれども、巻頭の部分でもうちょっと命を守ることが大前提ですということはうたったほうがいいのかとは思います。

○池上委員長　それこそ事前の備え、発災時の行動。
○冨川委員　命が守れているからこれをやるのだよということを、もうちょっと強目に最初の３条のところあたりで言ってあげたほうがいいのかと思います。
○池上委員長　大事なことですね。事前の備えと確かに発災時の行動と。
○冨川委員　ライフラインがとまってしまったから数カ月つらくなるというイメージと、例えば今、大きな地震が来たときにするべきことというイメージが、それこそ具体的にできていない方がほとんどだと思うので、そこをきちんと、章で分けるというのはもちろんありなのですけれども、まず大前提として持ってくるところをいかにできるかという感じです。
○国崎委員　その話でいくと、30は全部備えですね。事前にやっておくものですね。
○冨川委員　そうなのです。なので、この30というのは、あなたが発災前にやっておくべきことだよということをきちんと伝えてあげる。
　「東京防災」はそうだったと思うのですけれども、章としては時系列だったではないですか。発災時の行動というのが第２章なのがどうなのかなと。なので、そこをきちんと分けてあげたほうがいいのかと思います。
○国崎委員　「いますぐできる30のこと」というよりは、生活に定着してもらうことがやはり重要だと思うので、「生活習慣の中でできる30のこと」というほうが、テーマ、目的としてはぱしっとくるのかと思うのです。
　第１章「はじめよう、たすかる暮らし方」では、私はまず土地選びであったり建物の耐震についてとか、ここからでないと命は守れないというところを、どのように最初に落としながら重要でかつわかりやすく伝えていくかは挑戦であり、私たちに求められているところかと思うのです。そこを火災の部分も含めて、命を守るとかけがをしないというところを押さえた後に、２章目の被災した後にという行動があり、その後に第３章かもしれませんが、被災生活があって、もしかしたら第４章があって事前の備えということで、ここの部分はある意味重要度でいくと低いのですけれども、これを取っかかりとして前に持ってくることはいいと思うのですが、私の気持ちとしては、大事なことは最初に見てもらいたいというところがあるので、「いますぐできる30のこと」を見てこちらのほうがおもしろいから第４章から見ようでもいいと思うのですが、まず伝えたいこととして命を守ることを最初に持ってきて、それをいかに見やすくするかが挑戦すべきことかと思います。
　大事なところはぶれずにどのようにそれを見せやすくしていくのかが重要かと思います。
○池上委員長　ありがとうございました。
○池上委員長　ほかに何かありますでしょうか。
　五十嵐さん、いかがですか。
○五十嵐委員　まずは構成の切り口を決めたほうがいいかと、思っていて。優先順位を決めていったほうがいいのか、これを見ると全部大事だと思って、さっきどなたかがおっし

ゃったかと思うのですけれども、大事なところの内容のもう少し詳しくするところはコラムで補完していく形でもいいと思うので、この章立てでやっていったほうがいいのかという話をしたほうがいいと思いました。

一方で、ステップがあるほうが確かに取っかかりもしやすいと思って、この章立てとして、行動を促すための行動レベルの切り口というのはすごくいいと思うので、項目を全部行動レベルに合わせていった切り口で見ていくということ。あと、項目をどういうように順番を決めるのかを今、話し合えたらもう少し先に議論が進みますね。

○冨川委員　これは単純にＡだけを前に持っていってもいいのかなと思うのですけれども、どうですか。

○中島委員　それは最終的な調整の問題だと思うので、とりあえず今、五十嵐さんがおっしゃったように、ここに足りないコンテンツがあるかどうかを最初の備えとして、このコンテンツは必要なのではないかとかというお話をしていくと進むというのは本当にそうだと思います。

どうですか。今、国崎先生がおっしゃったような土地選びや耐震性とかは確かにそうだし、あったらすごくおもしろいし、引っ越しや建物選びとかそういうことを考える上でもすごく役に立つとも思いますし、東京ならではというのもすごくおもしろいなと。もし入るのだったら、コンテンツとしてやはり入れたらすごくおもしろい気がする。なかなか教えてもらえないことですね。

○冨川委員　コラムとしてでもね。

○中島委員　でもいいです。

ほかにここにあること以外で、こういうコンテンツは入れておいたほうがいいみたいなことはありますか。備えというか、助かる暮らしとして。

○国崎委員　１章のものは全部３章に持っていけばいいのにと思ったのです。１章はほとんど被災生活の暮らし方です。私にとっては１章の中身というのは、そのくらい大したことがないのです。私も委員長と同じでがちがちの防災なので、１章は火災であったりとか命を守ること。

例えばこれは防災ブックですけれども、主に地震を意識しているのであれば、なぜ死者が出ているのか。その死者は何が死因でといったら、やはり私たちはそこから目を背けてはいけないのです。特に首都直下では建物の脆弱性によって人が亡くなることが多く指摘されているわけですから、東京にいる女性をしっかりと守るためにもそこから目を背けて耐震性をコラムにしてしまったりとか、それから軟弱地盤のことをコラムにしてしまうような扱いではいけないと思って。これが例えば行政のつくる物でなければ自由な視点でつくっていいと思うのです。本当に女性が関心を持つようなグッズからいきましょうかとか、被災者の声とかそういう見せ方は自由だと思うのですが、ただこれは東京都が出す、行政が出すものですから、いろいろな専門家の方もこれをすごく注目していますから、この内容なのかと思われないように、まずは行政としてここの点は死者を出さないためにどうす

るのかという視点は、絶対ぶれてはいけないと思うのです。第１章で先ほど言ったように、大事なところを持っていって、女性が嫌がらないような見せ方というのはないのだろうかとは思います。

○池上委員長　すみません。どうしても現場を見ているものですから、そこがぶれたら絶対いけないと。

これがちょっと弱いのは飛散防止とは書いてあるのですけれども、ガラスときちんと書いていないのです。ガラスと書いてくださらないと、命が守れてもライトを探しながら手をけがした、足をけがしたということにならないようにということもやはり知ってほしい。

あと建物選びのことで言いますと、今、ハザードマップが23区、それから島嶼部でも結構きちんとできているのです。まだまだできていないところもありますけれども、ハザードマップを活用するとかなり地震、風水害についてもどこが弱いかをやはり自分で知ることもとても大事です。そのような活用とか、行政ならではの情報を提供できたらいいかと思っています。

ほかにいかがでしょうか。

○田中委員　１と３の違いが少しあやふやなところが幾つかあると私は思っていて、１は事前の備え、３は被災した後のアクションだと思うのですけれども、そういう意味では分かれてはいるのですが、例えば第１章の下から３番目、「いざという時のために備えるたすかるバッグ」のつくり方は被災後のアクションであって、知識としては備えなのです。こちらはどちらかというと知識の防災ではなくてアクションの防災であって、被災する前に知っておくと被災した後にアクションが促されるという情報がまとまるのだったら、やはりごっちゃにしないほうがいいと思っているのです。

○池上委員長　その辺の整理がとても大事ですね。恐らく、皆さんが何をやっていいかわからない、どこから先にやるのというのは、その辺だと思うのです。

今までの意見を伺ってみて、事務局のほうでいかがでしょうか。

○事務局　順番、例えばＡをまとめるというところは、一つあるかと思います。あとは見え方として飽きないかどうかといったところで、そこは検討していきたいと思います。

大事なところを最初にというところは非常にわかりますし、大事なことが何かというと、やはり命を守ることからスタートしていくのかなというのが今、お話をずっと聞いていて感じたところです。

お話があったように中身を決めて、私どもはどうしても表現も含めて考えてつくっていってしまうところがありますので、そういうこともあってまずコンテンツを決めないことにはというところもあったものですから、こういった御議論をしていただいて、見せ方はまた別に考えていくことにしますので、そういう意味では何が大事かということを御議論していただいていますので、それを踏まえては考えていきたいと思います。

○池上委員長　こういうたたき台がないと議論を進められないので、これが正解ということではなくて。

○事務局　余り気楽な取り組みだけを載せるわけではなくて、大事なものはしっかり載せていくというところで、特にＡの「計画的に」の部分などはもうちょっと踏み込んで大事なことも載せたい、メリハリをつけたいという思いではやります。
○制作会社　見せ方の話で言うと、冨川先生がおっしゃったステップ、１、２、３という話は、実はＡの項目では「すぐできる」、「暮らしに合わせて」、「計画的に」と３ステップのつもりで書いていて、Ａの中ではその３ステップがあり、それよりも大きな分類としてＡ、Ｂ、Ｃという分け方がありというのが、非常に複雑になってしまったなと反省をしております。
○池上委員長　１点申し上げたいのですが、木造住宅密集地の方たちは、意外に自分たちの地域の弱いところを知るということからスタートしますので、結構防災に関して関心が高いし、頑張っているところが多いのです。むしろそういう形で、それこそコラムで「このように天水おけが置いてあります」とか、そういうことで言ってあげると、ほかの人たちがこういう備えをしたらいいのだと気がつくかもしれません。そういう意味できちんと発信していただきたいという気持ちはあります。
　ほかにいかがでしょうか。
○事務局　「いますぐできる30のこと」ということでさっきお話があったように、備えの話ばかりで必ずしも本文にリンクしていないところもありますというお話をしたのですけれども、こちらをどういうものにしていったらいいか。特に最初の入り口なものですから、もしそういったことをお聞かせいただけると助かります。
○池上委員長　わかりました。この資料４の「BOUSAI LIFE TOKYO」についていかがでしょうか。
○国崎委員　先ほどのように生活習慣という位置づけにすれば、この生活習慣で防災力がつくとか助かる道が開けていくみたいなイメージで位置づけていったら、私はこのタッチ、軽さでいいと思うのです。しかもそれを本の最初に持っていくことがこの本の特徴になっていて、先ほどの繰り返しになりますけれども、具体的には４章くらいに位置づけて見てもらえたらいいのではないかと思います。多分最初からここに耐震性とかと書いてしまうとやはりつらいので、これは位置づけとしてはこのくらい軽い感じでここに入ってくるのでいいのではないかと思います。ただ、一つ一つについては精査が必要だと思うところがありますけれども、全体的な軽さはいいのではないかと思いました。
　以上です。
○池上委員長　この資料４で気になったのが、２枚目に「【18】寝室にスニーカーを置いておく」とあります。実際にスニーカーを置いている人がどれだけいるのでしょうか。我が家もおいておりません。皆さんどうですか。
　置いていないですよね。ガラスなどでけがをするから靴を準備というと、ガラスの飛散防止フィルムをやらないでもいいということになるではないですか。これはしていない人が注意しなければいけないのです。していない人が余りにも多いので、私も寝室に靴やス

リッパとか靴下をたくさん履いて移動したほうがいいですよとか言っていたのですけれども、今はそういう段階ではないと思っています。むしろガラスの飛散防止フィルムを張っておけばそれで安心。飛び散らないという安心感があるところを強調していただきたいと思っているのですが、いかがでしょうか。
○国崎委員　そのように一つ一つやっていきますか。
○冨川委員　今、このテイストでこれでいいかというところだと思うのであれなのですけれども、先ほど中島さんがおっしゃったみたいに全てが内容ときちんとリンクしているほうがいいのかなと思います。
○国崎委員　でも、これはどうなのでしょうか。リンクさせたほうがいいのですか。
○中島委員　私だったらリンクさせます。なぜなら、ここに書いてあるのにそれ以上はどうしたらいいのということに結論がないというのは、結局自分で調べてねとかそういうことになりますよね。本として完結させたほうがいいと思うので、そこは乱暴になってしまうかなとも思うので、どんな形でもいいと思うのです。ちょっとだけしか触れていない、コラムで触れているとかその程度でもいいと思うので、逆に言えば、本に載っていることの中から抽出した30のことだと思うのです。このページの役割は、こんなにやるといいよということや知識が本の中にあるのだけれども、それをピックアップするとこれなのだよというのが冒頭にあるという意味だと思うので、逆に言うと必ずリンクをしてくるというものではないかと思います。
　一個一個精査していくみたいなことというのは、私たちのこの場で必要なことでしょうか。
○事務局　今、結局全部を後段とリンクするべきだという話でしたが、現状の案はリンクしていないので、一個一個の精査はまた後ほど。
○中島委員　それでは、ここに関してはこのタッチでいいですよということと、リンクさせたほうがいいですよということで大丈夫ということですね。
○池上委員長　そういうことですね。
○制作会社　ちょっと質問していいですか。
　リンクは一応この下に詳しくはリンクさせたいところもあるけれども、この１行くらいで済ませられるような話もあるのかと思っていたのですが、やはり今、おっしゃったように、全てが後に詳しく書いてあるというつくりのほうがよろしいでしょうか。
○中島委員　考え方が多分逆ということだと思います。本の内容がありきでそれを抽出してきた巻頭企画になっていることが、導入という意味では必要かと思うのです。だと思うと、必ずリンクさせる。自然としてくる。つまりしていないことに関しては、本の中でも取り上げなくていいということだと思うのです。逆に大事なことであるから行動にすぐ移せることとか、大事なことであるから30に入っているわけだから、それはフォローしたほうがいいと思います。
○冨川委員　ざっと見た限りしますよね。

○中島委員　何とかどこかには、多分１章だけではなく２章、３章とかも入ってくれば必ずできることだと思うので、例えば今の30をベースにして精査していってどこかしらにはリンクできるとか、そこは問題なくできるのではないかと私は思います。
○制作会社　わかりました。ありがとうございました。
○国崎委員　これの見せ方なのですが、テキストだけだとリンクさせたほうがいいと思うのですけれども、例えば「財布に小銭を残しておく」というと必ず何でそれが必要なのかを少しつけますよね。というと、例えば内容によって必ずリンクすることを目的にこれを選ぶというよりは、挙げた中でリンクできるものだけリンクしていくというものではだめなのですか。
○中島委員　それは整合性が足りないと思います。本の格としてという話ですけれども、例えば今、デザインをいただいている「財布に小銭を残しておく」に３行書いてあります。
○国崎委員　それでだめなのですか。
○中島委員　本当だったらこの３行が要らないくらいなのだと思うのです。
○国崎委員　テキストだけになるということですか。
○中島委員　この見出しだけになるということです。テキストはついていないということです。「財布に小銭を残しておく」だけでいいのだと思うのです。「行けるときに、トイレは済ませておく」だけでいいのだと思うのです。「ラップは多めに買い置きする」だけでいいのだと思います。これが何でというのが、ページに引っかかってきて後ろに飛ぶ。そうすると、そうか、「お釣りがないかもしれないから現金を置いておいたほうがいいのだ」というほうが整理をされていると思うのです。ここだけを読んで、もちろんこれでそうか、なるほどと思ってそれでもいいと思うのですけれども、もしもっと整理するならページが飛んでいる。つまり、ここに書いてあることが何で大事なのかという意味づけがちゃんと本でフォローアップされているということなのです。そういうことが多分必要だと思います。
　それに対して、飛んでいるところがないとなると、何で大事なのかというのはこの３行しかないわけです。それはここの巻頭で載せる意味があるのだろうかということです。逆に巻頭で載せる意味があるのだったら、ちゃんと後ろで説明することが必要だと思います。
○池上委員長　読者の心を捉えるという意味では、そういう手法がいいのかもしれないですね。「東京防災」がそうでしたね。えっと思ったところにちゃんと括弧して何々ページへと飛ばしていたのです。
○中島委員　特にこの仕掛け、このやり方の仕掛けだったら、前に来ることは中の抜粋だと思うのです。そういうようになると、絶対に飛んでくるはずなのですということかと思います。
○国崎委員　それでは、これで言うと全く変わってきて、ここの説明もなくイラストもなく、文字ベースで30並んでいる感じですか。
○中島委員　そうではなくてイラストはあって、このテキストがないということです。よ

り整理するなら「行けるときに、トイレは済ませておく」とあって、トイレに行っているイラストがあってＰ幾つということです。
○制作会社　もともと興味がない方が読むことも想定し、こうやって一々逆引きとか戻ったり行ったりしないかなという思いがあったので、最初に１行つけ足す、３行つけ足すくらいで完結しているという形のほうが、読者の方には分かりやすいのかと思っていたものですから。
○中島委員　この間もこの話は実は出ていたと思うのです。見出しがあってテキストがあって中に飛ぶみたいな、それをどう整理していくかという話だと思うのですけれども、多分巻頭企画に書いてあるテキストと中の文章がダブってくるのです。となると、余り整理されていないというか、結局どこをどう読んだらどの知識があるのかが読者の人に一発で伝わらないと思うので、もし自分がやるならそうします。でもそのお考えももちろんありだと思うのです。ここを読めば何でそれを行動したらいいのかが完結できるというのも一つの考え方としてありだと思うのですけれども、よりどこに何が書かれているかを整理するなら、やはり飛べるほうがいいと思います。本の導入としてこれはあるわけだから、ここにしか書いていないことではないほうがいいと思います。
○冨川委員　これも私たちの活動の体験談ベースになりますけれども、圧倒的にやはり本を読まない人が多いのです。そういう中で、読ませる本をつくりたいという気持ちがやはり皆さん統一であると思うので、私はここしか読まない人が多分いると思うのです。読んだとしてもここにこれが書いてあると、ここしか読まないで何かできる気がすると思って終えてしまう人がたくさんいると思うので、せっかくならここで何か引っかかったことで中をのぞいてほしいというアクションがやはりすごく欲しいと思うところでも、冒頭は本当に３行も削ってしまってもいいのかなと個人的にはすごく思います。中をやはり見てほしい。
　例えば「製氷室をいっぱいにしておく」と言われても、やはり何でと思うはずなのです。ただ水になるからかとここで分かってしまうと、それをすればいいやと思って読めなくなってしまうので、何か中でリンクする文字があれば、読めない人だったら結局読まなかった自分が悪いというわけではないけれども、ここだけでもういいやと思ってしまった人はそれまでだと思うので、何とかそこを読ませるような工夫というのは欲しいと思います。
○中島委員　今のは本当にそうだと思うのです。冨川さんの意見は本当にまさにそうだと思うし、もしかしたらここにリードをつけたいのだったら、何でこれが必要なのかという問いかけのリードにするといいかもしれないです。「製氷室にいっぱいにしておくと、解けたときに…」みたいなことにしてページが飛ぶとか、トイレに行っておかないとこうなってみたいなことを想像させるとかでページが飛ぶ。もしリードをつけるのだったら、そういう役割にして、何でこれが必要なのだろうと思ってもらう。それでページが書いてあってページを飛ぶというやり方だったら、より読んでくださるような気がします。これはジャストアイデアですけれども、そうすると今、冨川さんがおっしゃったような飛んで読

んでほしいという、なるほど、こういうことだったのかとわかるということと、情報が整理されることが両立する気がするのですけれども、もちろんここで完結してこれだけ読めば大丈夫とはページがならなくなるわけなのですが、やるアクションはわかるわけなので、そうしていくというのは一個のやり方としてありだし、そうするとデザインも整理されると思います。

巻頭から中に飛んだ方がよくて、これに象徴されるようなコンテンツが中に入っていますという導入としての役割がきちんと果たされていることが大事かと思いました。

○国崎委員　実際の作業として30あってこれはおもしろいと１から見て、次は何ページとそういうところはどうなのでしょうか。例えば20代の感覚であったりとか、30まで一々こうやって見るのが面倒くさいと思うのか。高齢者の方も何でこういうつくりなのだろう、不親切ねと思うのか。これは多分私たちの感覚だけでなく、いろいろな方がごらんになるといったときに、20代はどうですか。

○田中委員　見ないです。１ページ、ペラ１で完結してほしい。

○国崎委員　すごく見せ方はおもしろいのです。気になるのです。何だろうと思いますけれども、これが５つならいいですが30もあって、一々飛ばないとよくわからないというこの作業を逆に面倒くさいと思う人も出てくるのではないかと思うのです。だとするならば、むしろ見せたい５や10とかとなれば、まだ行ったり来たりもいいかもしれませんが、30をやりますか。

○五十嵐委員　ターゲットをまた考えることにもつながるかと思うのですけれども、30か10かということもあるのですが、初めのところだけしか読まない人もいるという想定でもいいのかなと思って、ここで抽出された大切なことが出てくるのであれば、それだけ見てオーケーという人がいるという想定でつくっていくのでもいいと思うので、さっきのリードもすごくおもしろいと思ったのですけれども、やはりすごく大切なことをばんと書いてある、何個かあるというのでよくないですか。

30個かどうかはまた別の話で、すごく大事なことだけを初めに載せる。そこしか読まない人がいるのは、それはそれでよし。もっと勉強したいと思ったら、それを見て後ろに行ってもらうというものでもいいと思います。全員がそうはならないと思うので。

○中島委員　これはあくまで導入だと思うので、読みたい人は多分後ろをばらばらと見てなるほどみたいな感じで見ていくと思う。これを見てからそこから必ず飛ぶわけではなくて、これは多分ある意味のおまけではないですけれども、本編に入るまでのことではないですか。だから仕掛けとして例えばこれだけふんだんにイラストが入って、こういう行動をすればいいのかというのがビジュアル的に入ってくるというのは、わかりやすい入りだと思いますし、今、五十嵐さんがおっしゃったようなことだと思います。

30もありますけれども、こうやって見ていて気になるところしか結局見ないのだと思うのです。「そうか、製氷機ね。」みたいなことしか見ないわけなので、30を必ずしも１はオーケー、２はオーケーといかないわけですから、これが50になったら重いかもしれない

ですけれども、10～30くらいではいいのではないですか。
○池上委員長　１日１項目にしてしまえば。
○中島委員　どうせ気になったものしか見ないから、そうしなくても大丈夫です。
　とりあえずは読みたい人にとって役にも立つ、知識を深めたい人にとっても役には立つし、これだけでもアクションできるのだということですね。これだけでも役に立つのだということです。それをもっと知りたかったら後ろにいけるというこのつくりで、大きいつくりを変える必要はないのかなという気はするのです。
○事務局　リンクというか、必ず整合性はとれるように配慮はします。
○中島委員　別にそこを読まなくても本編だけ読めばいいわけですから、それでいいような気がします。
○冨川委員　大丈夫ですか。
○田中委員　大丈夫です。私は本当にもう見ないので。長々と書いてあることは読まないし、後ろを読まないといけないことはもう読まないし、基本ゼロという感じです。
○冨川委員　巻頭企画だけ読んでオーケーという前提にするのか、やはり読ませるものにするのかというテーマになると思う。でも30くらいでいいと思います。１日１個。
○池上委員長　今、資料３、資料４についていろいろと御意見をいただきました。
　それでは、時間も過ぎておりますので、次の検討に移りたいと思います。
　次は「マイブック化の工夫について」事務局から。
○事務局　資料５です。こちらの資料をごらんください。前回の委員会でもちょっと触れさせていただきましたけれども、やはり長く愛着を持ってもらうための工夫が必要だろうということで、カスタマイズできるシールをおまけ的につけようかと考えております。
　使い方といたしましては、自分ごと化できるようなシールということで、できたこととかあるいは覚えておきたいこと、家族と友人と相談したいこととか後でやっておこうといったような、好きなページに自由にシールを張っていただく。あるいは吹き出しのシールに何か自由に書き込んでもらうといったもので、例えばシールがアクセントとなって自分に重要なことを再確認してもらう。また、剝がしてもまた張れるようなシールを想定しています。一度読んだら終わりではなくて、ちょっと楽しみながら自分ごと化できるようにできるかと思っています。
　前回の委員会の中でも、多分五十嵐先生のほうからだと思うのですけれども、付箋が効果的だという学生の御意見の御紹介がありました。検討もしたのですけれども、付箋だとかさばってしまって、製本した際に本が傷んでしまうというリスクあって、シールであれば学生だけではなくて子供やお母さんにも楽しんでもらえて、活用の幅が広いかなということで一応このような企画とさせていただきました。実際のデザインはまたこれから変えていければと思っています。
　あと言葉なども今後さらに検討していきたいと思っておりますので、委員の皆さんにはこういったシールの活用方法とか言葉とかデザインとか、そのあたりについていろいろと

御意見をいただけたらと思っています。
　以上です。
○池上委員長　ありがとうございました。
　いかがでしょうか。
○田中委員　私はよく手帳とか本とかについてくるこのシールは、一番初めに捨てるのです。本当に要らない。私は要らないと思います。
○国崎委員　どうして捨てちゃうのですか。
○田中委員　きれいなまま保管しておきたい本とか手帳なのに、これを入れることによってどんどん汚くなるという感覚になるのです。整理されていかなくなってしまう。別にペンで丸をすればいいと思ってしまうのです。シールを張れば張るほど空気が中に入って、きれいな本ではなくなってしまうので、置きづらくなるし折れ曲がりやすくなる。なので、本当に要らない。全然使わないと思ってしまいます。
○事務局　そういう御意見もあります。
○冨川委員　これはあれではないですか。使わない人も多分いっぱいいると思うのだけれども、使う人のためを思ってつくるのであれば、付箋というか飛び出たほうがよくないですか。
○中島委員　それだと製本がだめだったという話ですよね。
○事務局　付箋だと嵩張るため、製本の際に本に跡がついてしまって傷んでしまう。
○中島委員　製本が難しいという話です。
○冨川委員　このシールをぺろっと飛び出るような感じにはできないのですか。しおりみたいになりたいのです。
○田中委員　ネイルシールみたいに。
○冨川委員　そうです。
○中島委員　でも、それだったら自分の付箋でやりますよね。
○冨川委員　多分やりたい人は自分の付箋でやります。
○池上委員長　私たちは付箋を張りますね。自分の必要な字を書いたりしたほうが。
○中島委員　マイブック化というのは、愛着を持ってもらうためにということですよね。カスタマイズする。
○事務局　そうですね。自分の手帳にシールを張ったりするように。
○中島委員　そういう効果ということですね。
○冨川委員　手帳にシールを張っている方、いらっしゃいますか。
○中島委員　私は張らないです。
○冨川委員　私も張らないです。
○国崎委員　私は大好き。きゅんとします。これがあった瞬間にきゅんとしました。付録とかでシールがあったらすごくうれしくて、むしろとっておきます。
○田中委員　本当ですか。そうなのですね。

○国崎委員　シールはいっぱいあります。手紙とかにも張ったり、シールがあるとすごく得した感があって、東京女性防災ともし書いてあったら、みんなに張りたくなります。
○中島委員　確かにうちも付録でシールをつけるとすごく売れます。猫特集の時は猫のシール。
○国崎委員　前回五十嵐先生がおっしゃってくださったときに、そうだそうだと思いました。これがあればと。
○池上委員長　だから、学生さんはすごく好きということですね。それもよくわかります。でも、自分は張らないなと。年齢層にもよる。
○冨川委員　こういうシールは好きなのですけれども、猫のとかも買ったりすると思います。
○国崎委員　後で読み返す内容があったら、私はそうそうと思って張っておきます。
　付箋は書かなければいけない面倒がありますけれども、シールは書いてあるから後で読み返せば、そうそうと思ってぱっと張りたくなりますし、「できた！」ならできていると。特に「いますぐできる30のこと」とあれば、できている、できていないと張りたくなってきます。
○池上委員長　賛否両論ございますが、今、意見としていろいろといただきました。
○五十嵐委員　飛び出ているほうがいい。
○池上委員長　飛び出ているほうがやはり目立ちますね。
○国崎委員　でも逆にそれをやってしまうと、中にはつけられなくなってしまうのですよね。
○事務局　例えば下半分にだけのりがついていて、上に張ることもできるし、中に張ることもできるということが技術的にできるのかどうかみたいなこともありますね。
○池上委員長　まだ決定ということではないので、一応御意見として承りました。
　それでは、次に進めてよろしいでしょうか。
　次はタイトルでいいですか。
○事務局　はい。
　タイトルですが資料６をごらんください。前回御意見をいろいろといただきまして、再度２案御用意しています。いずれの案もショルダーというか上のところに「わたし」という言葉を追加して、自分ごと化をするという狙いをつけております。
　冒頭御説明しましたように、メインターゲットが低関心層の女性になります。配布というか展開につきましても、日常生活の身近なところでみずから手にとっていただくことを想定しております。あとは都民アンケートの内容も御説明させていただきましたので、こういった内容を踏まえて、どちらのタイトルが低関心層に響くのか、あるいは私ごと化しやすいのかといった観点でいろいろと御意見をいただけたらと思います。
○池上委員長　いかがでしょうか。Ａ案とＢ案というのがあります。
○田中委員　前回国崎先生がおっしゃっていたものが一番ぱっと聞いて覚えが。

○事務局　女性防災ですか。
○田中委員　「東京女性防災」。そのままの「東京防災」のブランディングにしっかり乗っかるみたいなほうが手にとると思いました。
○事務局　ターゲットに女性で内容も女性視点ではあるのですけれども、男性にも見ていただきたいというところもあるので、余り女性だけをぱっと打ち出すのは狙いとは異なるかと思っております。
○池上委員長　では、五十嵐さんから順番にご意見をどうぞ。
○五十嵐委員　前のときのブランディングに乗るというのがいいと思っていたのですけれども、それがちょっと難しいというのであれば、命を救うということを出さなければいけないのであれば、「わたしのいつもが、いのちを救う。」がいいと思いました。「たすかる暮らし方BOOK」になるとちょっとレベルが落ちる感じがするので、この２つで見るとしたら、下の「東京くらし防災」で、上にあるのは「わたしのいつもが、いのちを救う。」。この２つだけを見るとしたら、この組み合わせがいいかとぱっと見て思いました。
○池上委員長　国崎さん。
○国崎委員　これだけで言えば「わたしのいつもが、いのちを救う。」のサブタイトルがよくて、下は「東京くらし防災」だと思ってはいるのですが、ただ、私はやはり「東京女性防災」がいいと思っています。というのは、男性が女性の防災を知りたいといったときに手にとると思うのです。なので、そういった意味では「東京防災」の女性版ですよと、私たちが思う以上に、実は世間の人たちはそのように位置づけていらっしゃるので、ストレートに「東京女性防災」でいいのではないかと思ったりしました。
○池上委員長　はい。
○田中委員　私もまさしく同じで、ここから見て女性の内容が入っているとイメージがしにくくて、すごくやわらかい日常の本なのだなくらいで、すごくやわらかくなってしまうというか、インパクトが結構薄くなっているという感じがしました。でも、やはりＡ案のサブタイトル、コピーのほうがリズム感もよくて読みやすくて、「いつも」と「いのち」が３文字でラップみたいですけれども、耳ざわりがいいというか口ざわりがいいと思いました。
　以上です。
○池上委員長　読んでみると一工夫がかえってあってという感じですね。
　冨川さん、いかがでしょうか。
○冨川委員　ターゲット層を考えたときに、低関心層ということがあって多分Ａ案は「いのちを救う」という強い言葉を上に持ってきているので、下が割と緩い感じなのだと思っていて、Ｂ案は防災という言葉ががつっと入っているので、あえて入れていないのではないかと私は勝手に思っているのです。なので、「いのちを救う」というのがついて「くらし防災」というと、低関心層が手にとるかというところが多分あったのかと思うのです。私も上のサブタイトルと「くらし防災」、この「東京」というのはやはりついたほうがい

いのかなと私は思っているので、「東京くらし防災」のほうがインパクトはあるかと思います。ただ、強みがちょっと出てしまうかなとも思います。
○池上委員長　中島さん、いかがでしょうか。
○中島委員　私も皆さんと同じで、「わたしのいつもが、いのちを救う。」というサブと「東京くらし防災」の組み合わせが一番すとんとくるかなというか、何の本なのかわかる。多分そこが一番大事なのだろうと思うので、そこかなと。ただ、一個懸念するとして、もしサブタイトルとかで問題がないのだったら、やはり「女性の」という要素は入れたほうがいいのかなとは思います。
○冨川委員　そこは「わたし」とかというので表現されているということなのですよね。
○中島委員　ということだと思うのですけれども、男性も「わたし」と言いますみたいなことだと思うのです。そうなってくると、例えばピンク色で「わたしのいつもが、いのちを救う。東京くらし防災」と書いてあったら、女性向けかもしれないという補助になるというそこのトータルで考えると、ピンクかなということにもつながってくる。これがサブタイトルの意味になるかなという気がちょっとしました。
○池上委員長　最後に私から。実は第２回が済んだ後あたりから防災仲間からばんばんメールが来まして、女性だけのための防災ブックにはしてほしくない。例えば「東京防災」がありました。女性の防災ブック、高齢者の防災ブック、障害者の防災ブックというようにはしないでほしいと言われたのです。つまり、こういうようにしないという部分も含めた女性視点の防災ブックです。だから余り女性、女性と、女性だけが読むような本の内容にはしてほしくないという意味なのでしょう。そういう意味でちょっと私は、女性をそんなに前面に出してはいけない気もしているのです。
○事務局　ありがとうございます。
○池上委員長　今くらいの御意見でよろしいでしょうか。
　それでは、カラーについて。
○事務局　先ほどちょっと御説明したように、淡い緑のだとカラーユニバーサルデザインの認証が通らない可能性があるということ。濃い緑にすると視認性は高まるけれども、ちょっと暗いトーンになるのではないかと懸念をしている。
　一方の紅赤。こちらだとカラーユニバーサルデザインの認証は大丈夫だろうというところです。あとは目立ちやすいというところ、手にとりやすいというところで、こちらがいいのかなという考えでございます。
○池上委員長　いかがでしょうか。
　こうやって本当に緑になると全体が寂しい感じがします。
　それでは、こちらも一言ずつまた五十嵐さんからよろしいですか。
○五十嵐委員　池上先生が余り女性女性ではないほうがとおっしゃいましたけれども、やはり女性視点でつくっているところから考えると、私はユニバーサルデザインを通るということもあって、紅赤色がいいと思います。

赤だとちょっと目がちかちかするような気もするので、やわらかい色のほうが見やすい。30のところでもしこの色を使うとしたら、取っつきやすくしてもらうところなので、がっと入ってくるよりは、やってみようかなというような気持ちの色だと、私の感性ですけれども、感じました。

○池上委員長　ありがとうございました。

国崎さんはいかがでしょうか。

○国崎委員　私はこの領域は専門ではないので、プロの方に本当にお任せしたいと思うのですが、ただやはり紅赤がよいかと思っています。

○池上委員長　ありがとうございました。

田中さん、いかがでしょうか。

○田中委員　私も紅赤のほうが結論としてはいいと思っています。

ただ、結論をするための情報量がやはりまだ足りなくて、先ほどおっしゃっていたみたいにタイトルが女性だとわかるのであれば緑でいいと思うけれども、今の２つ色の選択肢の場合は、紅赤にしないと本当に伝わりにくいと思ったのと、起用されるイラストによってもぎゅんぎゅんの女子のイラストだったら緑にしたほうが、こてこての女子という感じになってしまうと悲しいと思ってしまうので、やはりイラストとタイトルとのバランスによってしまいそうだとも思います。

以上です。

○池上委員長　冨川さん、いかがでしょうか。

○冨川委員　私は薄い緑が本当は一番いいと思っていたのですけれども、これがアウトということであれば、結論としては紅赤のほうかと思っています。

○池上委員長　それでは、中島さん。専門家から一言。

○中島委員　済みません。わがままを言って最後にこの話とさせてもらったのですけれども、やはりお話ししてからのほうがイメージしやすいと思うのです。タイトルのこととかもそうだと思うし、それをトータルで考えると皆さんの薄いピンクのほう、紅赤かと思ったりとか、文字として女性を入れづらい状況なのであれば、この色で少しその雰囲気を出すというのはありな気がするし、単純に目に優しいみたいなものもあると思うのですけれども、読みやすいとか親しみ深いみたいなこともあるかと。

イラストはそれこそ専門家の皆さんに素敵なイラストを選んでいただいてということだと思うので、ぎゅんぎゅんにはならないのではないでしょうかと思います。

あと、書いていただく内容が割と質実剛健みたいなことでもあるので、やわらかい雰囲気に持っていくというのは、すごく大事なことではないかと私は思います。

○池上委員長　私も皆さんと同感で、紅赤がいいかと思っています。

そんなところでよろしいでしょうか。

○事務局　ありがとうございます。

○冨川委員　イラストは「東京防災」の方を引き継ぐという話ではなかったのでしたか。

○事務局　それは引き継ぎます。
○国崎委員　キャラクターは加わりますよね。
○事務局　「東京防災」のイラストと併存させるというか、バランスはちゃんととっていくように加えます。新しいイラストレーターは探しています。
○制作会社　ちょっと項目が多いので、アクセントを絵のところでつけるという形がいいのか、今、デザインの流れを考えている最中です。
○国崎委員　確かに「東京防災」のイラストだと、漫画にしたときにちょっと難しそうですね。コメントをしないからこれは生きてくるのであって、このイラストはここで会話するイメージではないです。
○制作会社　全部が全部同じイラストレーターだと窮屈な感じがするのかと思いました。
　あとマニュアル的なものが続くときには「東京防災」のイラストはいいと思うのですけれども、会話という漫画的な話になると、この人はちょっと違うかもとは思っております。
　ただ、１回「東京防災」のイラストレーターに吹き出しをつけて描いてもらって、それをというものも検討材料としてはあるとは思っていますけれども、できたらちょっと変えたほうがアクセントになるのではないかと思っています。
○中島委員　一冊の中でイラストレーターを変える、何人かでやってもらう、同じテーマだけれども、テーマごとに変えていくとかというのは、効果的なこともいっぱいあるので、統一感という意味で一冊通しのよさももちろんありますし、でも今回のコンテンツをどう見せるかというのが一番大事だと思うので、１コマ漫画的なこととか、実用的なこととかというのであれば、違う方でうまくリンクする方であれば大丈夫な気がするので、そこは任せて大丈夫なのではないかと思います。
○池上委員長　済みません。ちょっと時間が過ぎておりますが、少し延長ということでよろしいでしょうか。
　あと、キャラクターについて。
○事務局　あと一点、御意見をいただきたいと思うのが、今回の防災ブックでキャラクターのようなものをつくったほうがいいのかといったところの御意見を。ごらんのとおり「東京防災」は子供も含めていろいろな人に親しんでもらうということで「防サイくん」というキャラをつくっていて、中で随所に出てくるような形でやっています。都の防災事業のPRというか民間企業とかいろいろな団体の防災イベントなども防サイくんは活用していただいている状況です。
　そうした中で、新たなマスコットキャラクターをつくったほうがいいかどうかというところを、皆さんから御意見をいただけたらと思います。
○池上委員長　いかがでしょうか。
○国崎委員　防サイくんを使えばいいのではないですか。
○事務局　それも一つの考えとしてあります。
　ストーリーテラーではなくて、マスコットキャラとして必要かどうかということです。

ストーリーテラーとしてのキャラクターは新たに登場することはありきとして、さらに新しいキャラクターをつくる必要があるのかということです。

○中島委員　では、サイでいいのではないですか。本としての統一感に問題がないのだったら、「東京防災」とのセット感が出ていいのではないかと思うのです。

○事務局　防サイくんを例えば後ろのほうに出して、セット感を出すというのは十分に。

○中島委員　表紙のどこかちょっとにいるでもいいし、目次とか章立ての頭にいるとかは。

○事務局　邪魔をしない程度にいる。

○中島委員　テイストとちょっと違う気もするのであれなのですけれども、そこはうまく調子を合わせていただきたい。

○池上委員長　ありがとうございました。

長時間にわたり本当にありがとうございました。いろいろと貴重な意見を伺いました。

それでは、今後のスケジュールについて、どうぞ。

○事務局　最後に日程調整を急にさせていただきまして済みません。

第４回を９月８日金曜日、第５回を10月３日ということで、今回いただいた御意見も踏まえて、中身の原稿のところとかをお示しして、具体に御意見をいただいて見ていただきたいと思っておりますので、長丁場を少し想定させていただいておりますので、よろしくお願いいたします。

○池上委員長　ありがとうございました。

それでは、ほかに何かお聞きになりたいこととか確認したいこととか、委員の皆様からありますか。

特になければ、これで閉会にしたいと思います。

今日は本当にありがとうございました。

午後０時10分開会